

## 5月全校朝会

皆さんに見て欲しい物があります。

これは、1枚の年賀状です。先生が、30年以上前から、毎年お正月に届くことを願っている年賀状です。送り主は、「沖野くん」という保育園の頃からの親友です。なぜ、そんなにも毎年届くことを願っているかこれから話します。

沖野くんは、生まれつき「筋ジストロフィー」という病気にかかっている、筋肉が発達しにくいため、立ち上がったり、歩いたり、物を持ち上げたりという動きが思うようにできませんでした。授業中に手を挙げる時には、体を傾けながら、時間をかけて行います。走る時は、前に倒れるように体を動かすしかありません。

そんな彼を、学級の友達はいじめていたのです。掃除用具入れに閉じ込めたり動きを真似したり……。生まれつきの病気のため、彼が悪いことをしてそのような状態になったわけではありません。自分たちも、生まれる前に何か良いことをしたから、今の幸せな状態で生まれたわけではありません。偶然、人間として生まれさせてもらっただけなのです。なのに、学級では沖野くんに対するいじめが起きました。酷いいじめにあった沖野くんを、皆さんはどう思いますか？彼が悪いのかな？誰が悪いのだろう？いじめをした人だけが悪いよね。

そんな時、彼は「もう死にたい」と私に言い、ベランダから飛び降りたいと言いました。しかし、彼にはベランダを飛び越える力がありません。苦しむ彼を見て一緒に泣きました。

沖野くんは、心の強い人で、「運動会に出たい」と言いました。ご両親もそれを望んでいました。先生が通っていた小学校には「一周120メートル」のリレーコースがあり、一人120メートルを走るようになっていましたが、沖野くんは一周を走ることができません。でも、彼は走りたいと言ったので、私は担任の先生をお願いをしました。「沖野くんが20メートル走ったら、残りの100メートルを僕が走ります。その後、自分の120メートルを走るので一緒にリレーに出させてください。」と。許しをいただき、小学校6年間、沖野くんと同じチームになり、一緒にリレーを走りました。私に倒れるようにバトンを渡してくれた沖野くんの分も走りきると誓って必死に走りました。

6年生の時のある日、沖野くんが定期検査で通院し学校を休んだ時に、担任の先生が「現代の医学では、沖野くんは20歳までしか生きられない。」とおっしゃいました。それを聞いて、「あと8年で会えなくなるのかも……。」と、急に怖くなりました。中学校からは沖野くんと別々の学校になり、会えない日が続きましたが、毎年、年賀状のやりとりは続きました。

そして、20歳のお正月、ドキドキしながら郵便ポストを開けました。すると、そこには、沖野くんからの年賀状が入っていました。「良かった。」と年賀状を抱きしめました。それから、30年以上が経ちますが、今でも、沖野くんから年賀状は届きます。日本の医学の進歩と沖野くんの努力のおかげです。

このような小学校時代を過ごした私は、ある1つの夢をもちました。それは、「将来、小学校の先生になる。そして、いじめがない、みんなが笑顔で過ごせる学校を作る。」という夢です。今、幸せなことにその夢は叶っています。沖野くんの存在が、小学校の先生になるという私の夢を叶えてくれました。そして、吉岡小学校の皆さんが「いじめのない、笑顔いっぱいの吉岡小」を作ってくれているのおかげです。みんな、ありがとう。

これからも、みんなで力を合わせて、誰一人としていじめに合う子もいじめる子もない笑顔いっぱいの吉岡小をつくっていきましょう。

これで、校長先生のお話を終わりにします。